

# 町内会活性化へ

平成23年度、2000人の市民と市内全町内会(220町内会)を対象にアンケート調査を行い、4つの課題が出てきました。

- ①町内会への未加入
- ②小規模な町内会及び高齢化した町内会

- ③嘱託員・衛生委員の制度、町内会業務助成金の制度

- ④防災・防犯・災害等への対応

これらの課題を検討するため、全小中学校区から選ばれた嘱託員14人と公募による1人で、昨年7月に「津島市町内会活性化検討会」を設けました。

市内の多くの町内で核家族化が進み、高齢者だけの世帯も増えています。

また、世帯数が減少し、存続が危ぶまれている町内会もあります。もちろん、昨今多発している自然災害に対しても十分な備えが必要です。

検討会では、これらの地域の課題や運営、活動の事例を出し合いました。

## 課題

- ・世帯数の減少(過疎化)
- ・住民の高齢化(役員のなり手不足)
- ・空き家や空き地(増加)
- ・外国人のゴミ捨て(マナー)

- ・市からの配付物(多すぎる)
- ・災害時の備え(万全でない)
- ・防犯灯の電気料金(負担増)

## 工夫事例

- ・防犯灯のLED化(維持費の軽減)
- ・専門委員の選出(防災委員等)
- ・AEDの配備
- ・防災用品の購入(水、ライフジャケット、発電機、テント等)
- ・独自の避難場所の確保
- ・長寿者へのお祝い金



## 提言

こうした現状から、これからの町内会はどうあるべきか、様々な課題をどう解決していくかを話し合いました。そして、今後取り組むべき方向性と対応策が、5回にわたる議論の中から「提言」としてまとめられました。

### ①町内会への未加入者対策

市は、広報紙やホームページによって積極的に加入を促すこと。

町内会は、疎遠になっていたマンションやアパート等の住民にちらしを配付するなどして、加入を呼びかけること。

### ②小規模町内会・高齢化町内会

10年後を考えると、町内会レベルでも高齢化が更に進み、役員の確保や町内会活動が困難になることが懸念される。

市は、仲人役として足腰の強い町内会になるよう、統合・再編基本計画を作成し、町内会とその周辺町内会に対し説明会や相談等の支援をすること。

### ③嘱託員・衛生委員制度

町内会長と嘱託員との関係の問題や、嘱託員・衛生委員が行政の下請けと捉えられるとの意見もある。市は嘱託員と衛生委員個人への委嘱を来年度からとりやめ、町内会代表者(町内会長等)との連携を密にするよう。

### ④町内会業務助成金

活力ある町内会育成に向け、より公平な助成金算出式にする必要があること。(均等割額・世帯割額の変更)

### ⑤防災・防犯・災害

町内会(地域)だけでは、解決が困難な防災・防犯・災害について、行政と密接に連携を取り合い、協調して対応していくこと。

この検討会を通じ、改めて地域の大切さと町内会の意義が認識されました。提言は、アンケートで上がった防災や高齢化の問題を町内会の代表者の委員が検討し、まとめたものです。



平成25年11月25日、提言書を市長へ提出

市は、この提言を最大限に尊重し、全町内会に課題を共有するための説明会等を開催していきます。

なお、「提言」の詳細は、ホームページをご覧ください。

問合せ コミュニティ推進課

内線23224・23225